

平成22年度 千葉県遺跡調査研究発表会

お知らせ
コーナー

- 日時：平成23年2月27日(日) 午後0時20分～4時30分
- 会場：千葉県立中央博物館 講堂
- 交通案内：J R千葉駅から「大学病院」行きバスなどで「中央博物館」下車、徒歩7分

当日先着受付
定員200名

古墳時代の初めから前半にかけての、日本列島の変革期に焦点をしばって、時代を大きく動かした地域間交流をご紹介します。歴史好きの皆様向け企画です。
中央からの視点と、東国からの視点をからめた、ダイナミックでわかりやすい講演と討論をお楽しみください。

基調
講演

白石太一郎氏（大阪府立近つ飛鳥博物館長）
「ヤマト政権の成立と東国」

白石太一郎氏

研究
報告

田中 裕氏（茨城大学准教授）
「房総から北上する古墳時代初頭の土器群」

白井久美子（財千葉県教育振興財団）
「東国から見たヤマト王権ー前期から中期の大型古墳を中心にー」

パネルディスカッション

「地域間の交流から見た古墳時代前期の東国と房総」



田中 裕氏



白井久美子

平成22年度出土遺物巡回展 房総発掘ものがたり

開催中 北から 西から 海路からー房総3万年の交流ー
平成23年1月22日(土)～2月27日(日)

会場：千葉県立中央博物館

昨年7月から、県内各地を巡回した本展覧会の会期も残りわずかとなりました。新たな資料も加わり、さらに見どころいっぱいの展示をお楽しみください！



石枕・立花（成田市船形手黒遺跡）



仏像墨書土器（市川市北下遺跡）
鯨面埴輪（君津市鹿島台遺跡）

北下遺跡ー市川市ー 現地説明会

今年度も北下遺跡の現地説明会を開催します。これまで奈良・平安時代の墨書土器などが見つかった川跡の続きをご見学いただく予定です。最新の発掘成果をお楽しみください。

- 日時：平成23年2月20日(日) 午前11時～午後2時
- 場所：市川市国分一丁目（国分バス停 徒歩1分）
- 行き方：◎J R市川駅または京成市川真間駅から京成バスで国分経由に乗車、国分バス停下車。
◎J R松戸駅・北総開発鉄道北国分駅から京成バス・J R市川駅行き（国分経由）に乗車、国分バス停下車。

※駐輪場はありますが、駐車場がありません。自家用車でのご来場はできません。



©2011 Google-画像

小雨決行
大雨中止

房総の

文化財

Vol. 50



ISSN 0919-0848
Boso no bunkazai

平成23年1月25日 財団法人 千葉県教育振興財団

〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811 (代) FAX 043-422-8850

http://www.echiba.org/bunkazai_top.html

銅銭ぎっしり大量出土！
文協遺跡（袖ヶ浦市）



contents

◆発掘調査速報

文協遺跡（袖ヶ浦市）

◆遺物紹介コーナー

養安寺遺跡（東金市・大網白里町）

◆埋文・アラカルト 千葉県遺跡調査研究発表会ほか

発掘調査速報 文協遺跡

銅銭ぎっしり 大量出土!!



平日に開催した現地説明会でしたが、305名の見学者におこしいただき、その様子は千葉テレビのニュースにも取り上げられました。

平成22年9月、文協遺跡（袖ケ浦市）の中世集落跡の調査で、直径約65cmの土坑から、曲物（薄い板を丸く曲げて作った容器）に入った大量の銭貨が発見されました。これまでに確認できた銭種は、いずれも開元通寶・元豐通寶をはじめとした唐や北宋時代の中国のもので、銭の真ん中の四角い孔に紐をとおして、約100枚ごとに小分けにして納められたとみ

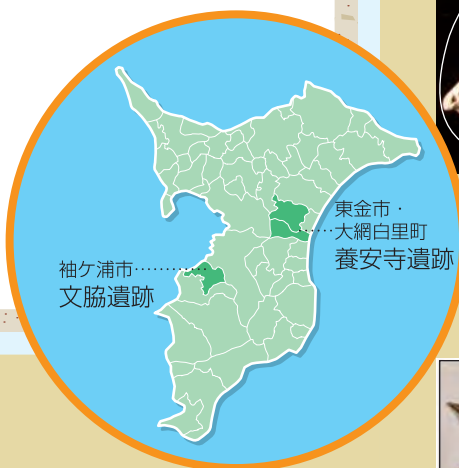


屋内で型取り作業を行うため、銭貨を周囲の土ごとに取り上げました。写真は、発泡ウレタン樹脂で固める前に木枠を設置した状況です。

られます。

埋蔵銭とよばれる、こうした大量銭貨の発見はめずらしく、特に発掘調査での発見としては、660枚が発見された井戸向遺跡（八千代市）が県内最多でした。まだ調査中のため、正確な枚数は不明ですが、おそらく7千枚程度になるのではないのでしょうか。

10月に現地説明会を行った後に、出土状況の複製を製作するため、土坑の取り上げと型取りを行いました。早ければ、来年度の出土遺物巡回展で、複製の展示とともに、詳細を速報する予定です。



遺物紹介コーナー 養安寺遺跡

貝といっしょに シカやイノシシの骨が ざっくざっく!!

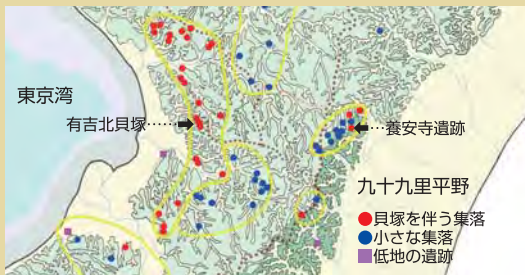
養安寺遺跡（東金市・大網白里町）は、

九十九里平野を望む丘陵上に位置し、平成19～21年度にかけて、集落跡とともに、縄文時代中期の貝塚が発掘調査されました。

貝塚からは、現在も九十九里名物となっているチョウセンハマグリやダンベイキサゴ（ながらみ）などの貝とともに、シカやイノシシ、小動物、魚、ヘビなどの骨が大量に出土しました。特に骨の出土比率は、同時期の有吉北貝塚（千葉市）をはじめとした東京湾側の貝塚と比べて圧倒的に高く、とても注目されます。その中には、鏃や髪飾り、縫い針などの骨角製品や作りかけの製品のほか、東京湾側の貝塚などではこれまでほとんど見つからなかった部位の骨も多く含まれています。このようなようすから、九十九里平野に面した養安寺遺跡は、狩猟活動の拠点であった可能性が高く、骨や角などをさかんに道具として利用していたようです。



標高約70mの切り立った丘陵上には集落が、斜面には貝層がありました。



縄文時代中期中ごろの貝塚と集落の分布図

整理作業が始まったばかりですので、今後の詳しい成果を楽しみにしてください。



主な骨角歯牙貝製品をならべてみました。質量ともに、縄文時代中期を代表する資料といえそうです。

- ①シカの下顎を使った皮なめし等の道具 ②切断されたシカの下顎 ③骨製ヘラ ④シカ角製垂飾 ⑤骨角製髪飾り・刺突具
- ⑥手のこんだ加工をされた特殊なもの ⑦骨角歯牙製装飾品 ⑧魚骨製垂飾 ⑨イノシシ牙製品 ⑩鳥骨製管状垂飾
- ⑪貝装飾品 ⑫骨角製ヘラ ⑬骨鏃・ヤス状刺突具



大きな斜面貝層から、たくさんの骨が出土しました。上の写真は、そのうちの1グリッド分（幅2m、長さ2m、厚さ約2m）を、大まかに分類したものです。今後詳細に分析することで、狩猟や製作・流通の解明につながる「宝の山」です！

